

前略

昨日は見舞いの電話有り難う。私の病状につきもう少し説明します。

脳のテッペンに血液のない髄液と言う体液のみの閉じた部分が在りますが、この体液の圧力が必要以上に高まると外部の大脳皮質に浸み出して、その機能、即ち腰や膝の運動バランスを不安定にします。即ち日常の立居振舞がフラフラしてきます。私の場合は更にパーキンソン病の疑いが重なっています。昨年11月に戸山の国立医療センターの脳外科で頭に小さな逆止弁を埋め込んでその先を細い管で腹の腹腔にドレインする手術を受けました。経過は期待したほどではありませんが、徐々に良くなる事を信じて隔週通院し毎日歩行訓練を繰り返しています。従って日常生活は半病人で殆ど外出しません。読書とワープロは何とかできますが。

以上が私の現状ですが、昨日の電話で貴方の健康も相変わらず健全ではないようで、くれぐれも用心して下さい。

毎日、新聞で報道される様に「文珠」「再処理工場」と、原子力平和利用の技術開発は、放射能と人類の交流に付いて基本的に、哲学を改める必要がるように思います。今まで散々経験して来たにも係わらず。

軍事利用については、それでも少しづつ前進が在る様に思います。米ソ冷戦時代には nuclear freezing (核凍結) でしたが、現在は nuclear abolish (核廃絶) まで世界全体のNGOが厳しくなってきました。未だ前途は遼遠ですが。

私は貴方の様な被爆者ではないので、大部楽天的で国連の最近の動き、国際司法裁判の判断、キャンベラ委員会、などの動きから、地球は何時か核兵器のない世界に到達可能だと「信じて」います。伏見さん、服部さんの核兵器研究会もすで今年で54回続いています。

ではまた、近況お知らせまで。

所沢

立花 昭